

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートや札幌市の共通指標の結果から、「分からないことなど、ねばり強く諦めずに取り組んでいる」児童の割合が8割を超えており、前年度よりも増加している。</p> <p>◇アンケートの結果から、「自分の目標をもつ」ことや「自分でやると決めたことはやり遂げようとする」ことに対して、肯定的な回答をしている児童が85%程度いる。</p>
	<p>◇自分が思っていることを人に伝えようとしたり自分の意見を進んで発言しようとしたりに消極的な傾向があり、全国学力・学習状況調査の質問調査からもそれに関する項目は全国平均と比べてもかなり下回っている。</p> <p>◇札幌市の共通指標の結果で、「意見の違う人と話し合おうとする」ことが前年度よりも減少している。友だちの意見を聴き、互いに寄り添い学び合う集団を目指したいと考える。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市共通指標の「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関する項目において、肯定的な回答は前年度と比較して、やや減少している。特に、「自分が必要とされていると感じる」割合が、低い傾向にある。</p> <p>◇学校行事や異学年交流、学級活動などにおいて、相互承認の場を設定し、自己肯定感が高められるよう指導を工夫する。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自分を「学びの主角」にすること	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
<p>(1) ペアやグループで対話 →発問したら、まず対話 発表したら、まず対話 対話の自然発生を実現</p> <p>(2) 子どもをつなぐ →自己（既習・経験）・他者（仲間・教師）・もの（教材・事象）をつなぐ</p> <p>(3) 当たり前のことを当たり前</p> <p>(4) 「困った」を柱に据えた授業</p>	<p>①自主的な学級活動の充実 →毎月の振り返りを行い、成果と課題を確認する。課題については、改善のための方法や目標など具体的に各学級で決め、行動していく。</p> <p>②自主的な委員会活動の推進 →各委員会での活動が全校に見えるように工夫し、互いにその取組や頑張りを認め合う。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇主に(1)や(2)について、クラウドを活用した協働的な学習を推進するために、実践事例の共有や教職員研修を行う。</p> <p>◇主に②について、パートナー校との連携のために、オンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声をつながられるようにする。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

